砂丘の麓の放牧（アルジェリア）

徳法寺秋彼岸

野町和嘉 写真展 祈りの大地‘地球’

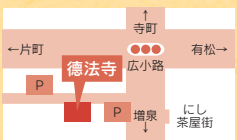
9月20日㈮～26日㈭

秋彼岸中日及び永代経法要

9月23日(月・祝)

午後２時より
講師　藤原千佳子 氏

午後４時より
野町和嘉写真集より
語り　あざみ ゆみこ 氏



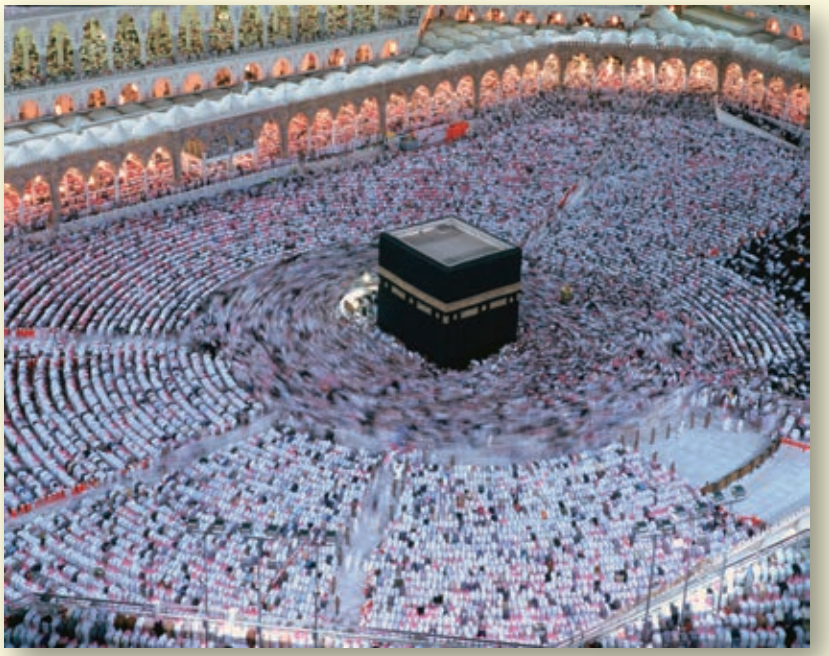
徳法寺　〒921-8031 金沢市野町2丁目32-4　TEL 241－5219

◇野町和嘉メッセージ

20 代半ばでサハラを訪れ、過酷な風土を生きる人々の強靱さに圧倒されたことがきっかけとなって、今日までドキュメンタリー写真を撮り続けてきました。訪れた土地の大半はいわゆる辺境の地であり、厳しい自然と向き合いながら、人々は自らの宗教文化に強いこだわりを抱いて生きていました。あるいは民族間の軋轢や理不尽な歴史のしがらみを背負いながらも懸命に生き抜く姿に魅せられ撮り続けてきました。

ところがそれら辺境の地にあっても、昨今、人々の意識は劇的に変わりつつあります。グローバリゼーションのひとつの局面である、効率、利便性といった共通の価値観にむかって、地球上があたかもアイロン掛けされた一枚のシーツであるかのように急速に画一化、平準化されつつあるというのが、私の印象です。約 40 年にわたって撮り続けてきた作品のなかには、暮らしが激変して歴史記録となった作品も少なくありません。これら民族文化の記録を、混迷の現代を映す、ひとつの合わせ鏡としてご覧いただければと思います。

岩窟聖堂の祈り（エチオピア）



メッカ巡礼（サウジアラビア）

ディンカ牧畜キャンプ（スーダン）

モンラムの法会で祈る僧侶たち（チベット）

写真家　野町和嘉（のまちかずよし）

1946年高知県生まれ。写真家杵島隆に師事、1971年にフリーの写真家となる。1972年のサハラ砂漠取材をきっかけに、ナイル川流域、アラビア半島、チベット高原、アンデス山脈、ガンジス川流域など極限の地を探訪する。厳しい自然環境を生き抜く人々の祈りと暮らしを静謐な映像で捉え、国内外の雑誌に発表。多くの写真集が海外で共同出版されている。1984年『バハル』『サハラ悠遠』で土門拳賞、1990年『長征夢現』『ナイル』で芸術選奨文部大臣新人賞、日本写真協会年度賞、2002年に大同生命地域研究特別賞ほかを受賞。2009年紫綬褒章。その他の写真集に『メッカ巡礼』『チベット』『地球巡礼』『ガンジス』などがある。

語り人　あざみ　ゆみこ

金沢市在住。ナレーターとして活躍、また、和小物を企画販売するなかで、着物啓蒙活動に尽力している。

アムドの放牧民の子供たち（チベット）